



「障害があっても仕事ができる！障害等の有無に関係なく、全ての人が生きがいを持って自分らしく生活できる社会の実現」の支援体制と連携の取組を強化

基本情報

- 所在地：高知県安芸市
- 団体名：安芸市農福連携研究会
- 取組パターン：中間支援の取組
- 主力商品：ナス、ユズ
- イベント：農福連携高知県サミットinあき

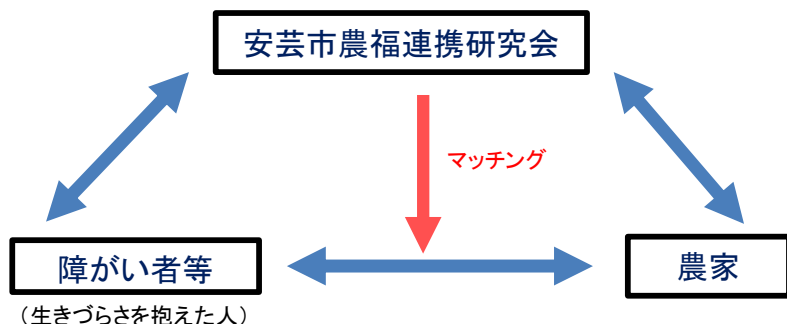


農福連携高知県サミットinあき

取組の概要

- 毎月の定例会を通じて関係機関との情報交換を積極的に行う事で、現状必要な支援・方法・問題点等を洗い出し解決を図る。
- 安芸市における農福連携の仕組みづくりと障害者理解についての講演や実際に障害者等を雇用している農家の体験発表をする事で、取組に対する理解を浸透させる。
- 農作業の切り分けを農家に依頼したりわかりやすく作業ができるように動画を作成するなど、素人でも積極的に参加できる仕組みづくり。
- 農業就労サポーターをJA高知県が雇用し障害者等の作業や心のケアと農家支援を行うことで、就労定着につながっている。

体制図



取組の成果

- 取組当初2018年度には農福連携に参加される経営体は11戸であったが2021年度には約2.5倍の27戸に増加。
- 障害者は取組当初に比べ約6倍の95名まで就労・雇用されている。
(一般社団法人こうち絆ファームも含む)
- 生活困窮から抜けだし200万円を超える貯金ができたと利用者もいる。
- 一般就労が難しいとされた方でも関係機関やJA高知県安芸地区無料職業紹介所を通して一般就労につなげた例もあり。

所在地 ▶ 高知県安芸市幸町1-16

連絡先 ▶ TEL:0887-34-8325 FAX : 0887-35-8512

E-mail: aki-einokikaku@ja-kochi.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://ja-kochi.or.jp>

【取組のプロセス】

2013年～

喫緊の課題である自殺対策から検討が始まった

きっかけ

自殺対策のためのネットワーク会議を発足。会議を重ねることで関係機関の連携が深まり、自殺以外の課題にも対応できる体制が整い始めた。

2018年～

会議を重ねるごとに自殺以外の課題にも対応できる体制が整備された

安芸市農福連携研究会の発足

○ 2018年、安芸市農福連携研究会発足。以降、下記の取組みを継続的に実施中。

- ・ 定例会
→ 毎月開催し、関係機関との情報交換を積極的に実施。
- ・ 講演会や研修会等
→ 安芸市における農福連携の仕組みづくりと障害者理解についての講演、実際に障害者等を雇用している農家の体験発表などを実施することで、取組みに対する地域や関係者の理解を深める。
- ・ 視察研修及び視察受入
- ・ 農業体験
→ 農作業や集出荷場の作業を実際に体験することで就労定着。



情報共有（毎月定例会）



雇用に向けた作業体験

高知県農業労働力確保対策事業を活用し「農福連携高知県サミットinあき」を開催

高知県農業会議農福連携推進支援障害者等試行就労受入体験事業を利用し収穫体験

一般社団法人こうち絆ファーム設立（2020年）農閑期の受け皿へ

2019年～

農業就労サポーターを導入

○ 2019年、農業就労サポーターを導入。障害者等の心のケアや農家の支援を担うことで、就労定着につながっている。



農業就労支援サポーターの支援

今後の展望

不登校の子どもを抱える家族を対象に収穫体験を実施引きこもりを未然に防ぐ

台風の日となり活動継続へ

- 障害者・引きこもり者・生活困窮者・高齢者に加え、触法者の受け入れと再犯防止への取り組みも一部はじまる。
- 安芸市から始まった「農福連携」が台風の日となり、県内各地域へ、さらには日本全国へ広がり「すべての人が生きがいを持って自分らしく生活できる社会の実現」に向け、安芸市農福連携研究会は活動を継続していく。



意見交換会（農家と関係機関）

平成24年11月に一般社団法人STEPUP CoCoRo事業所(就労継続支援A型事業所)を開所。その後、デイサービスを主体にする一般社団法人(平成26年)、農作物生産に取り組む農業生産法人(平成28年)を設立し、農業と福祉の連携による障害者福祉等に総合的に取り組む中、障害を有する矯正施設退所者の生活及び就労支援にも取り組む。



基本情報

- 所在地：宮崎県宮崎市
- 団体名：一般社団法人 STEPUP
- 取組パターン：グループ内連携型
- 主力商品：ズッキーニ、ミニトマト、なす、おくら等



収穫前のズッキーニ



とれたてのミニトマト

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所「CoCoRo事業所」は、平成28年より、関連企業の農業生産法人と連携し4.5haの農地でズッキーニ・ミニトマト等のハウス栽培とokra、枝豆、玉ねぎ等の露地野菜を栽培し、就労支援に取り組んでいる。
- 併せて、グループ施設である「CoCoRoホーム」では、障害を有する矯正施設退所者の共同生活援助・自立準備等の支援も実施している。



ミニトマトの誘因



ビニールハウスの管理作業



ミニトマトの収穫

体制図

CoCoRoグループ

一般社団法人STEPUP
CoCoRo事業所（就労継続支援A型）
・農園作業、内職作業（袋詰など）
CoCoRoホーム（共同生活援助）
・生活援助、買い物援助

連携

農業生産法人
株式会社CoCoRoファーム
・ズッキーニ、ミニトマトなど
農産物の栽培
・食品加工（企画中）
・ふれあい農園
・野菜の流通・販売・仲卸

一般社団法人誠樹会
（放課後等デイサービス）
大地事務所、大地しまのうち事業所
大地つきみがおか事業所
・自立の促進
・社会的スキルの向上
・居場所づくり

取組の成果

- それぞれの障害（精神、知的、身体）に合わせて作業を細分化し振り分けることで、個々の能力が発揮でき、収穫量や賃金が向上。

	平成28年	令和2年
農地面積	0.8ha	4.5ha（約5.6倍）
施設外就労者数	21名	27名（約1.3倍）
矯正施設退所者在籍者数	1名	3名（3.0倍）



- 地域との関わりが増えたことで自信に繋がり、一般就労後の定着が増加。

所在地▶宮崎県宮崎市大工3丁目342番地

連絡先▶TEL：0985-35-2910 FAX：0985-35-2920

E-mail：cocoro.stepup@gmail.com

ウェブサイト▶<https://www.cocoro-group.net/archives/company>

【取組のプロセス】

利用者と一緒に出来る作業を模索

2012年～

きっかけ

一般社団法人STEPUP CoCoRo事業所（就労継続支援A型）の20名を超える利用者の全員が関われる作業として「農業」に興味を持ち、本格的な農福連携の取組を開始。

農作業の中には、個性を生かした作業があるのでは!?

2016年～

株式会社CoCoRoファーム創設

- 平成28年8月、農業専門の事業所として株式会社CoCoRoファームを創設。70aのハウス施設において、ズッキーニ、ミニトマトなど多品目野菜を生産。
- STEPUP CoCoRo事業所等の利用者とともに、“農と福祉の連携”により、全ての農作業（土づくり、種入れ、定植、作物管理、収穫、選別、袋詰め、配送）を実施。



「協力雇用主」に登録し、矯正施設退所者の社会復帰を支援

露地畑での栽培も開始し、年々規模を拡大

2019年～

障害を有する矯正施設退所者の共同生活援助・自立準備等を支援

- 株式会社CoCoRoファームを創設し、農福連携の取り組み開始と同時に、グループ施設である「CoCoRoホーム」と連携して、障害を有する矯正施設退所者の共同生活援助・自立準備等の支援も開始。



水田でのコメ作りも開始し、更に規模を拡大

2020～

ノウフクJAS認証を取得と地域農家からの信頼の深まり

- 令和元年12月、ノウフクJAS認証を取得し商品に認証マークを表示することで、障害者が農業に携わる「農福連携」の取り組みをPR。
- 毎年の実績から、地域農家への農作業受委託が増加するとともに、遊休農地への回避や農地の有効活用の要望を受け、引き続き規模を拡大予定。
- 農作業のみならず、台風時の互助等により地域農家との交流が増えたことで、就労者の自信に繋がり、一般就労後の定着が増加。
- 作物の付加価値向上と安定した農作業の増加により、就労者の賃金向上を実現。



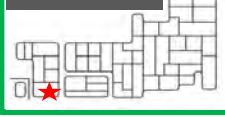
生産向上を目的に農山漁村振興交付金を活用し、加工作業場を整備

今後の展望

「生きていくこと・働いていくこと」をテーマに～

- 障害者の個性を大切に、作業を見つけ誰もが働ける職場づくりを創出。
- 地域の荒廃農地も有効活用し、地鶏の養鶏なども含め生きる現場を更に拡大予定。
- 一般就労を定着させることで地域全体での農業と福祉を循環を構築。
- 関係機関と連携して、矯正施設退所者の新たな生活を育て直し、更正の後押しを推進。





障害者等の”症状の再燃予防をしながら、苦労や喜びの経験を奪わないようなサポートをする”ことをモットーに就労支援施設を創設。施設利用者目線の就労環境改善と地域農家との連携を通じて、地域農業の維持・荒廃農地発生防止及び就労先の拡大、工賃向上に取り組む。

基本情報

- 所在地：鹿児島県龍郷町
- 団体名：株式会社リーフエッジ
- 取組パターン：②福祉完結型、③連携型
- 選定表彰：
令和2年度あまみ島一番コンテスト
スイーツ部門優秀賞
(主催：奄美群島観光物産協会)
- 主力商品・イベント：
ジェラート、ハーブティー 等

取組の概要

- 近隣農家の手伝い（マンゴー、たんかん、ドラゴンフルーツの収穫など）の労働対価を農産物で受け取り、ジェラート等に加工・販売し、工賃向上に結び付けている。
- 農業法人の設立や販売施設の整備等により、障害者の通常雇用及び就業選択肢の拡大を図っている。



たんかん収穫作業



ジェラート詰め作業



ジェラート製品(14種)



ECサイト

体制図

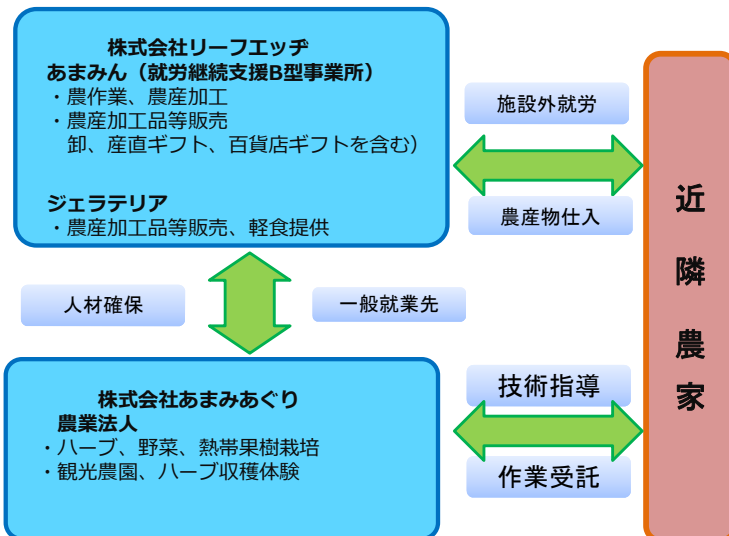
取組の成果

- 利用者の興味や障害特性に合わせた仕事のマッチング重視により、作業環境の改善や作業効率の向上につながり、利用者が増加。

	平成28年		令和2年
施設利用者	5名	5年間	28名 (5.6倍)
ジェラート販売(令和元年開始)	120万円	1年間	350万円(約2.9倍)

- 食品加工（ジェラート、ハーブティー等）とECサイト構築により販売が増加し、工賃が向上。

所在地▶鹿児島県大島郡龍郷町大勝578
 連絡先▶TEL:0997(62)5260 FAX:0997(62)5260
 E-mail:reefedge.amami@gmail.com
 ウェブサイト▶<https://reefedge.co.jp/>



【取組のプロセス】

2016年～

近隣農家の手
伝い開始

きっかけ

B型事業所近隣の施設農家の「日々の仕事量にムラがあってアルバイトを雇えない」という声を聞く中、「雨の日も仕事がある」ということに魅力を感じ、平成28年の事業所開設と同時に、農福連携を開始。

2017年～

ハーブティー用の
ハーブ栽培開始

農作業の労働対価は、農作物で！Win-winの関係を構築

- 「奄美の農業は台風との闘い。なかなか儲からない。」との声を聞き、労働対価は農家の金銭的負担が少ない「農作物」をB級品も含めることにより購入より多めにいただき、工賃支払いに繋げるため付加価値の高い加工農産物の製造へ。



2019年～

ジェラート製造
棟の建設

利用者の興味や障害特性に合わせた仕事のマッチング

- 精神障害者を中心に5～16名が農作業を、また室内作業希望の利用者が食品加工に取り組むとともに、在宅就労にて対人恐怖の方がECサイトの作成管理、筋ジストロフィーの方と脳卒中罹病後遺症の方がジェラートパッケージのデザイン作成を行う。
- 農作業は、作業強度別のグループを編成し、ハードになりすぎず物足りなくない作業量に調整するなど工夫している。



2021年～

一般就労への円滑
な移行へ

施設利用者の快適な作業環境と一般就労の場の提供を

- 体調が安定した利用者の一般就労への円滑な移行に向け、ハーブと熱帯果樹の生産をメインとする農業法人(株)あまみあぐりを設立。
- また仕事の選択肢を増やすため、ジェラート販売の直営店として「ジェラテリア」を建設。2Fは休憩室とし、短時間しか就労困難な利用者の出勤率向上を図る。



今後の
展望

荒廃農地解消と事業承継の受け皿に

- 増え続ける荒廃農地を活用し、障害を持った方々と共に新たな特産品づくりを目指す。
- 高齢化した農家や食品加工業者の事業承継先として、これまであった産業を絶やさないよう引き継ぎ、新たな価値を付け加えていく。
- スタッフや利用者さんたちみんなが潤い、心地よく過ごせる企業となる。





新宿区内の身体・知的・精神障害者が通う福祉事業所等30か所が集まり、（公財）新宿区勤労者・仕事支援センターを事務局として、障害者の工賃向上や地域交流を目的にネットワークを組織。「しんじゅQualityみつばちプロジェクト」を立上げ、都心のビル屋上等を利用した養蜂事業を展開し、サステナブルな社会の実現に貢献。

基本情報

- 所在地：東京都新宿区
- 団体名：新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク
- 取組パターン：連携型
- 主力商品・イベント：養蜂、はちみつ



しんじゅQualityみつばちプロジェクト

取組の概要

- ネットワーク・オリジナル商品づくりとして障害者による養蜂事業を企画立案し、新宿区の協力もあり実現。はちみつを使った商品の製造、販売や大手百貨店とのコラボ商品・ブランドづくり、販売会を実施している。
- 障害者は、蜜蜂の飼育・採蜜・はちみつの瓶洗浄、ラベルシール貼りといった作業に取り組み、障害の違う事業所が連携・分担し、障害者自身が主体的に取り組むなど新たな仕事を生みだしている。
- 都内ホテルではちみつを提供する宿泊プランや、有名菓子店ではちみつを使った菓子づくりが行われ、商品としてのブランドの付加価値を高めている。



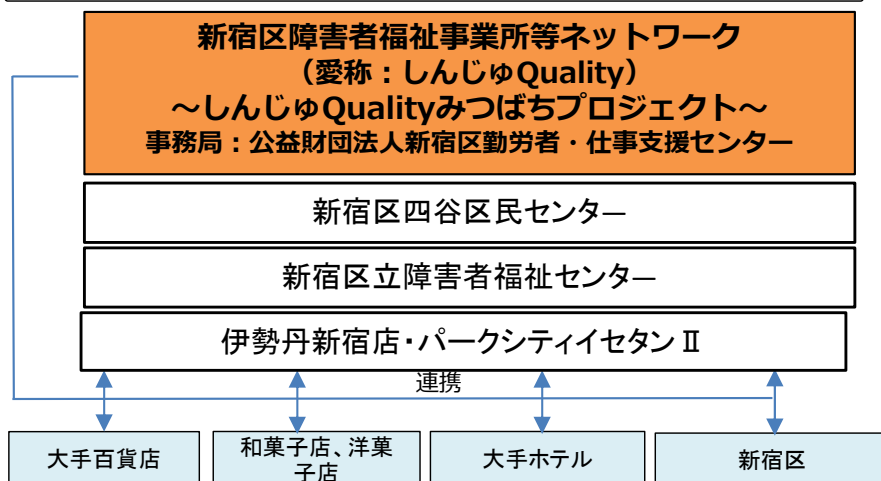
パークシティイセタンⅡでの養蜂作業とMIELはちみつ



障害者センターでの養蜂作業と新宿しQハニー



体制図



取組の成果

飼育委託費：設立当初（令和元年度）の42万円から126万円（令和3年度）に拡大。

養蜂拠点：設立当初（令和元年度）の1拠点から3拠点（令和3年度）に拡大。

波及的な効果：養蜂事業を通じて、百貨店、飲食業関係者、都市住民等といった、今までつながりのなかった人達との新たな関係が構築できた。また、障害者への理解の促進や生き物と自然環境の保護の重要性を地域社会に伝えることに役立っている。

所在地 ▶ 〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目3-29 新宿ここ・から広場しごと棟

連絡先 ▶ TEL:03-5273-3852 FAX :03-3208-3100 E-mail:shinjuQuality@sksc.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.sksc.or.jp/shinjuQuality/>

【取組のプロセス】

2016年～

都心における新規
ブランドを検討。

きっかけ

新宿区内障害者福祉事業所製品のブランド化検討のため、
有志事業所によるブランドプロジェクト企画を検討。

しんじゅ[®]
Quality

2018年～

ビル屋上を利用し
た養蜂事業を企画。

ネットワークの愛称「しんじゅ Quality」と決定

- 様々な障害の違う福祉事業所等30か所が集まり、それぞれの特性を発揮し、主体性を持って活動できる環境を作るため「新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク」を設立。ネットワークの愛称を「しんじゅ Quality」と決定。

しんじゅ[®]
Quality

2019年～

養蜂事業「しんじゅ Qualityみつばちプロジェクト」を開始

- オリジナル商品づくりを目指して、新宿区四谷区民センターで養蜂事業を開始。
- 新宿マルイ本館・新宿高島屋で自主製品の販売会「しんじゅ Qualityハンドメイドマーケット」を開催し、障害者が社員と協力し販売業務を実施。



2020年～

都心ビル屋上に養蜂拠点を拡大

- 新宿区立障害者福祉センター屋上（令和2年度）、伊勢丹新宿店パークシティイセタンⅡ屋上（令和3年度）に養蜂拠点を拡大。
- 前年度に養蜂活動を実施した事業所の障害者が、新たな事業所に養蜂作業のレクチャー、サポートを実施。親子連れをはじめ様々な地域の人達の見学が増加。



今後の
展望

多様な人や様々な生き物が互いを受容し助け合い共存共栄できる サステナブルな社会の実現に貢献する

- 「しんじゅ Quality」の活動をととして、障害者と地域の企業、学校、行政、地域住民など子供から大人まで、そしてあらゆる生き物が互いの価値や魅力を合わせることで、新しい「地域の力」を創造する。





農業、林業、人、エネルギーを連携させて環境を整え、より効率的かつ持続的な資源の活用を目指すとともに、福祉機関や教育機関との協力体制を築いて、地域全体の「輪」を強化する活動を行う。

地域の魅力と雇用を掘り起こし、誰もが自身の地域に愛着と誇りを持ち、自分の力を発揮できる暮らしやすい社会をつくる。

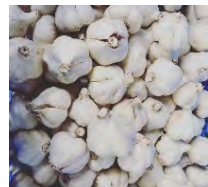
基本情報

- 所在地：長野県東筑摩郡筑北村
- 団体名：特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎
- 取組パターン：連携型
- 主力商品・イベント：

樹木管理、伐採、薪販売、農作業請負、温泉薪ボイラー運用、製材、精油、公園管理、古代麦生産、新規就農・就林・移住・複業支援、ワークショップ開催



登山道整備



有機栽培のにんにく



古代麦の栽培

取組の概要

- SDGsに配慮し山林を整備。ナラ・クヌギ・桜・アカシアなどの広葉樹を薪として販売するとともに製材、精油、フィールドワーク利用等で里山の100%利活用を目指す。
- 地域の間伐材を燃料とした温泉施設の薪ボイラーの運用を通じ、域内のエネルギー循環を実現（年間4.5万ℓ重油削減）、同時に様々な人の雇用をつくりだす。
- 数千年以上前から栽培されるパン小麦の原種にあたる古代麦を生産（英名スペルト、約1.5ha）、その他、桜花木や有機野菜生産を行うとともに地域の農作業、草刈り、公園管理などの請負業務を行う。
- 草刈機、チェーンソーの講習会、倒木の伐採処理、作業道整備、ロープクライミングなどの技術研修を定期的に行う。



草刈作業の代行



森林管理



薪製造

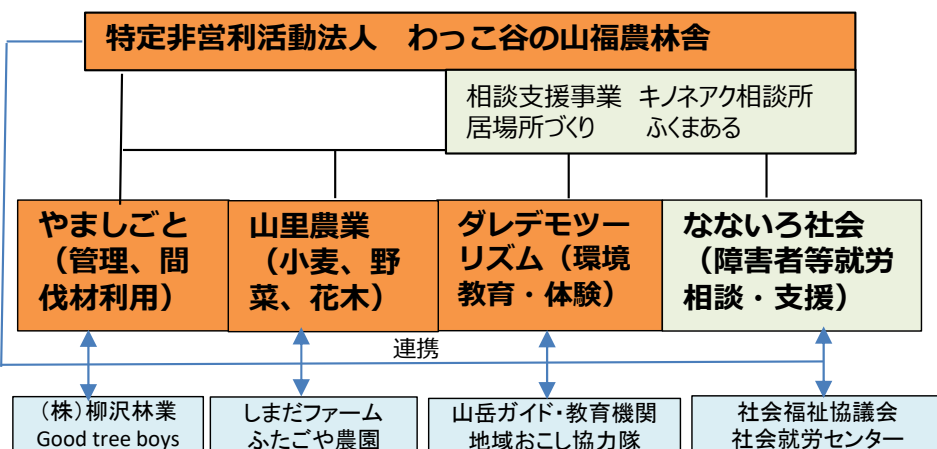


製材



精油

体制図



取組の成果

農地面積：設立当初（2016年）の0.1haから2.0ha（2020年）に拡大。
農作物はすべて有機栽培。

伐採件数：設立当初の2件から42件（2020年）に増加。

ほ場管理：設立当初の14件から136件（2020年）に急増。農繁期（4月から9月）は農業、農閑期（10月から3月）は林業（松枯れ危険木の伐採）を中心に業務を組立。

障害者就労：設立当初の4人から15人（2020年）に増加。

所在地 ▶ 〒399-7501 長野県東筑摩郡筑北村西条3846

連絡先 ▶ TEL / FAX : 0263-66-3035 E-mail: info@yamafuku.org

ウェブサイト ▶ <https://www.yamafuku.org>

【取組のプロセス】

2016年～

荒廃農地の増加
林業事業体の減少
高齢化の進行
地域活力の低下
障害者等就労場所の確保

きっかけ

前身である筑北村社会福祉協議会が「農×林×福×教×αプロジェクト」により、地域の困りごとを解決する農林業代行サービスを開始。

推進母体設立のための村民ワークショップを実施

- 荒廃農地、土砂災害、松枯れ被害が拡大。後継者や林業事業者がいないため、自然資源の荒廃が進行。
 - 障害者、引きこもり者、生活困窮者、移住者、高齢者の就業場所が不足。
- ⇒上記の課題解決のため、村民ワークショップ、講演会、啓発活動を行い、法人母体設立の準備を進めるとともに、古代麦生産と林業事業の拡大を計画。

2017年～

2019年～

独立運営となり、業務量が拡大、収入が増加

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎を設立

- 独立運営を開始、農林業の請負業務が急増。
- 教育機関（中学/大学）との連携事業を開始。
- 理事は、社会福祉士、林業会社代表取締役、農園代表、山岳ガイド、大学教授で構成し、会員数86名（2022年1月現在）。

2020年～

就労継続支援B型のほか、相談支援や居場所づくり事業を開始、より地域の拠点となる活動を展開

就労継続支援B型事業・認定就労訓練事業等を開始、業務を拡大

- 従来の作業に加え、林産物加工として製材事業、精油事業を開始し作業種を拡大。
- 村営温泉施設の木質バイオマスボイラーへの薪供給（年間約200トン）を行うため、間伐材を買取る「やまふく木の駅」を運営。域内のエネルギー循環を実現するとともに障害者、高齢者、移住者などの雇用を創出。

今後の
展望

宝と宝がつながる未来、100年先も輝く世界へ

- 様々な人たちがゆるやかに横方向につながり、多様性を認め合い、地球のサイクルの中で生かされている感覚のもと、誰もが居場所や役割を持ち生活できる地域・社会をつくること。
- 「私もOK、あなたもOK、地域も社会も地球もOK」。人口約4,000人の中山間地の課題解決の取り組みが、一つのヒントとして全国に認知され、それぞれの地域の宝を活かした地域づくりや環境づくり、人づくりの「わっこ」（※信州弁で「輪」）を各地に拡げていくこと。



伐木造材特別教育



近隣大学とのフィールドワーク



作業道開設



やまふく木の駅



収穫補助